

佐賀県研究成果情報（平成 23 年度）

ヒリュウ台「今村温州」におけるマルチ資材の種類と果実品質の関係					
[要約] ヒリュウ台「今村温州」においてマルチ栽培する場合、 <u>ビニル資材</u> を用いると糖度は 13 以上になり、果実サイズも M、L 果が中心となるとともに、 <u>ユズ肌果</u> の発生が透湿性資材に比べ著しく低下する。					
果樹試験場・常緑果樹研究担当				連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	ウンシュウミカン

[背景・ねらい]

「今村温州」は浮皮が少なく温暖化に適した品種の 1 つとして考えられ、これまでヒリュウ台による生産安定を明らかにした。今後は安定した品質の向上対策が重要になる。ここではヒリュウ台「今村温州」でのマルチ資材の種類と果実品質について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 透湿性資材を被覆すると果実糖度は 15.4 と高くなるものの、クエン酸濃度も 1.83% と高くなる。一方、ビニル資材では透湿性資材に比べ果実糖度が 2 低い 13.4 で、クエン酸濃度も透湿性資材が 1.83% であったのに対し、ビニル資材は 1.35% であった。また、両資材とも対照に比べると糖度は 2 以上高い（第 1 表）。
2. 果実肥大は被覆後 3 週間目には資材の種類での肥大差が明確になり、収穫時点では透湿性資材の果実横径が約 64mm であるのに対し、ビニル資材では約 75mm となる（第 1 図）。また、収穫果実のサイズ別分布では透湿性資材においては 2S～S の果実が中心で全体の約 70% を占め、ビニル資材では約 80% が M～L サイズの果実である（第 2 図）。
3. 透湿性資材では約 65% の果実にユズ肌果が発生したが、ビニル資材では約 5% である（第 3 図）。

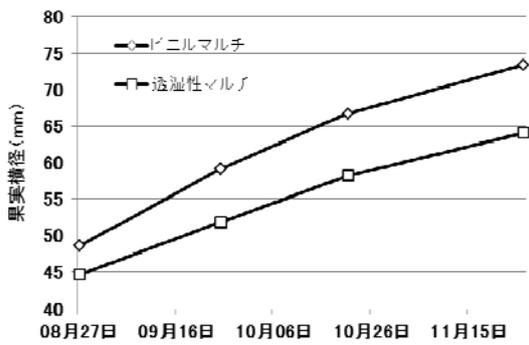
[成果の活用面・留意点]

1. 供試樹の樹齢は 10 年生で、マルチ被覆は 8 月 3 日～11 月 19 日の間実施した。
2. 両資材とも 10 月下旬から葉色が急激に低下し、特に透湿性資材ではその低下が著しいので、マルチ栽培を行う際には樹勢の低下に注意をする。
3. 「今村温州」は着果負担が大きくなると枝が裂けやすくなるため、枝吊りなどを行う。

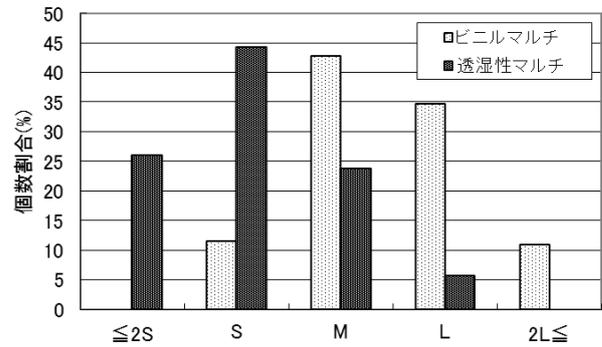
[具体的データ]

第1表 果実品質 (2009.11.27)

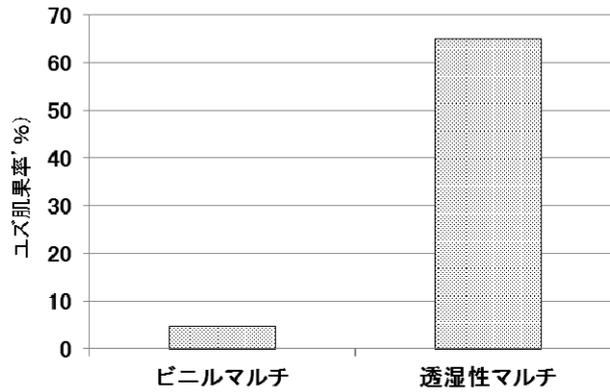
	横径 (mm)	果実重 (g)	糖度 (Brix)	クエン酸 (%)
ビニルマルチ	66.0	106.9	13.4	1.35
透湿性マルチ	62.8	95.0	15.4	1.83
対照	70.3	130.6	11.3	1.11



第1図 果実横径の推移



第2図 収穫果実のサイズ別分布



第3図 資材の種類とユズ肌果との関係

[その他]

研究課題名：温暖化に対応したカンキツの総合的な高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単事業

研究期間：2009～2014年度

研究担当者：新堂高広

發表論文等：